

第67回 関東甲信越静学校保健大会特集

平成28年8月25日(木) 栃木県総合文化センター

【特別講演】

那須烏山市立烏山中学校 田代 文恵

「世界一諦めの悪い男のオリンピックへの挑戦」と題して、2大会オリンピックのメダリストであり、日本体育大学教授でもある山本博氏を講師に招き特別講演が行われた。内容はアーチェリーとの運命的な出会いや父親とのエピソードの他、競技者として指導者としての体験談を交えたものであった。リオデジャネイロオリンピックが閉幕して間もない時期という事もあって、オリンピック経験者から、生の声で聞く様々なドラマや感動的な話は、とても興味深く時には胸を熱くするものがあった。特に、ロサンゼルス大会銅メダル獲得から、次の銀メダルをアテネ大会で獲得するまでに費やした時間は20年。その間には、私たち素人では想像を絶するほどの挫折や失敗、苦悩の日々があったと思う。しかし、それらの経験から導き出された、挑戦することのすばらしさや諦めない考え方、常に技術の向上を目指してモチベーション

を高く持ち続ける前向きな姿勢など、今もなおトップアスリートとして、現役の競技人生を送っているだけに言葉の一つ一つに重みを感じた。さらに指導者としても、恵まれすぎる環境の中で育ってきた現代の子どもたちを相手に、自ら気づき、成長に繋げる事ができるようにするための取組として、日々のやりとりの中に意図的にヒントを散りばめるなどの工夫があった。それらの具体的なコミュニケーションの持ち方やコーチングの仕方は、私たちにとっても学ぶべき事であり実践可能な内容として参考になった。終始、目標に向かって諦めないで挑戦し続ける事の大切さを熱く語り子どもたちの健やかな成長を願う山本先生の思いが会場一杯に感じられた講演会であった。



【班別研究協議会】

第1班

佐野市立南中学校 湯澤 美奈子

学校経営と学校保健班「教育目標具現化を目指す学校保健」に参加させていただきました。提案①では組織で取り組む健康づくりについて、体力の向上、食育・給食指導、保健指導の三本柱を中心とした取組について紹介がありました。チャレンジタイムに「遊・友スポーツランキング」を活用して目標をもった活動や、一人一人が健康体力づくりの作戦を立てて自己評価をしていく「いきいきちばっ子元気アッププラン」等の実践事例発表がありました。それぞれが長期的視野に立ったもので、全職員が一丸となりチームとしての体制がしっかり整えられていました。提案②では、生徒保健委員会活動から発信する健康教育について「気付く、振り返る、広げる」具体的な活動、アンケート調査等で明らかになった健康課題の解決、年3回実施されている学校保健委員会の活性化の三つの取組が紹介されました。生徒の意欲を引き出し、教職員のモチベーションを高めるさまざまな工夫がなされることで、学校全体が一つのチームとして育み、カリキュラムマネジメントの実践へとつながっていました。また、いずれの学校も保護者や関係機関との協力体制や地域とのつながりを大切に、広がりのある学校保健活動の様子が伝わってきました。多くのことを学ぶことができ、有意義な時間となりました。

第2班

宇都宮市立豊郷中央小学校 関根 うつ子

第2班では、「生きる力をはぐくむための健康教育」と題し、二つの発表がありました。

一つ目は新潟県の特別支援学校の【児童生徒が健康診断に興味・関心をもって受けられるための工夫】でした。検診器具を恐がらないために、見せて、触らせて、イラストやキャラクターのシールを活用するなどスモールステップで不安を取り除く工夫をされていました。一般の学校においても6.5%の率で発達障害が在籍するので、このような工夫は検診をスムーズに進めるためにどの学校でも即生かせ、興味関心も高められると思います。また、受ける側も受けられたことが自信となり、生きる力につながると感じました。

二つ目は、担任と共同して行う食育について、群馬県の栄養教諭の発表でした。食育が叫ばれて11年になりますが、発達段階に応じた年計を基に、専門性を活かした食育の授業を定着させているので感心しました。また、体を作るのに大事な食べ物を選別することは、命を育むことに直結するので、食の豊富な時代だからこそ、避けては通れない食育の必要性を感じます。

さらに養護教諭や栄養教諭は、食物アレルギーやその対応食・異物混入・食中毒など食に関する問題と最前線で向き合い細心の気遣いをしている現状から、その職責の重さを改めてひしと感じました。



第3班

鹿沼市立みなみ小学校 牛込 雅美

班別研究協議第3班では、「適切な行動選択の力を育てる性に関する指導・エイズ教育及び薬物乱用防止教育」について協議しました。

提案①の「知識を活用した保健学習の実践」では「結婚生活と健康（家族計画と人工妊娠中絶）」をテーマとした授業が紹介されました。「子どもを産み育てるための必要条件」をグループで話し合い、「現在つきあっている24才の彼女が妊娠した場合」、産む・産まないのメリット・デメリットを考える事例検討等、個人活動と集団活動を組み合わせた、思考力・判断力を深めるための工夫がとても参考になりました。

提案②では「適切な意思決定と行動選択ができる力をはぐくむ薬物乱用防止教育の在り方」として、保健委員の3年生が中心となった主体的な学校保健委員会（全校生徒・保護者・職員が参加）の取組が紹介されました。テーマを自分たちで決定し、危険ドラッグについて調べた内容を発表し、断り方のロールプレイをするなど、生徒の主体的な取組が印象的でした。また、終了後、全生徒が振り返りの記入と標語の作成をしており、事後指導による意識の向上もすばらしいと感じました。

第4班

足利市立坂西北小学校 前田 実咲

今回、「学校の歯科保健活動」について2校の取組を聞き、各校の実態に合わせた保健指導や保健管理と、前年度の反省を生かした実践がとても参考になりました。特に「歯」に関しては、子どもたちにとって最も身近な健康づくりの一つと言えます。「歯」から自身の健康を見つめ直し、改善していくことで心身共に健康になるのではないかと改めて感じました。また2校に共通していたのは、家庭や地域、学校医との連携です。学校で提案した取組を学校医の先生に協力していただきながら実施し、その内容を家庭へと伝え、保護者の意識の向上を図っていました。このようなサイクルで行うことで、子どもは興味・関心を持つことができ、家庭での保健指導も充実するということを強く感じ、自校での実践の参考にしたいと思いました。

さらに毎年度の取組をマンネリ化することなく、着実に子どもや保護者の意識を高めていくためには、実践方法を工夫していく必要があります。自分自身の反省はもちろん、子どもたちの様子を見取り、教職員や保護者の声を積極的に聞いていくことが重要だと感じました。子どもたちがより健康に生きるための保健活動を、学校をはじめとし、地域社会が一体となることで展開させていけるよう努めていきたいです。

第5班

栃木県立小山高等学校 山下 明美

第5班の「学校環境衛生と安全教育」に参加させていただきました。議題は「快適な学校環境づくりと実践力を高めるための安全教育」ということでお二人の先生方から発表がありました。はじめに東京都品川区立三木小学校養護教諭 西村先生から、児童保健給食委員会の活動を通した様々な工夫を凝らした取組についての発表があり、児童に興味をもたせながら環境衛生に対する意識を高める指導が印象的でした。また品川区では学校と薬剤師会が連携した「薬育」「薬物乱用防止教育」を実施しており、専門的な知識を有する学校薬剤師によって実験等を交え充実した保健指導の話もあり、連携の大切さを強く感じました。

次に山梨県立上野原高等学校教諭 石原先生からは「防災教育を中心とした実践的安全教育」と題して、生徒自らが安全を確保する能力や態度を身につけさせる安全教育でした。年3回予告なし避難訓練を実施しており、2回目は避難経路にトラップを設けるなどしたところ、戸惑っていた生徒たちもいたようでしたが、3回目の訓練では生徒が自分で判断して避難経路を求めるようになるなど、実践的安全教育の必要性を感じました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、大変有意義な研修会でした。

.....

第5回レベルアップ研修会に参加して

栃木県立さくら清修高等学校 永岡 裕子

午前中の講演は、宇都宮大学教育学部講師 久保元芳先生による「青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用の防止と新たな課題ー電子たばこ、ノンアルコール飲料、危険ドラッグを含む」でした。

この10年で高校生の喫煙、飲酒、薬物経験は減少、要因は教育の充実と社会的環境の整備が進んだため。しかし、電子たばこやノンアルコール飲料は代替品と捉えられているが、未成年でも購入可能(一部のコンビニでノンアルコール飲料は20歳未満の購入不可設定有)、危険行動出現のゲートウェイとなっている可能性があるため今後保健の授業等の実践が不可欠といった内容でした。

午後の講演は、虎ノ門カイロプラクティック院長 早稲田大学講師 碓田琢磨先生による「『姿勢』生涯使える身体の作り方～姿勢教育の本当の意味～」でした。

良い姿勢=元気で健康な体である証、身につかないのは体力が備わっていないため。日本人は世界一座っている時間が長いので(7時間)「ながら運動」で有効活用しようと、基本姿勢、オンオフ体操、キャットレッチを全員で実践しました。メディアに多数出演されているようで、わかりやすくあつという間に時間が過ぎてしまいました。今年もレベルアップができた実感した研修でした。

.....

第5回「レベルアップ研修会」実施後のアンケートより

レベルアップ研修会担当

今年のレベルアップ研修会は、宇都宮大学の階段教室で行いました。また、駐車場は峰小学校の校庭をお借りしました。厳しい暑さの中、参加して下さった先生方、本当にありがとうございました。次回はさらに良い研修会になるよう検討していきたいと思ひます。

研修会に参加された先生方からのアンケート結果を一部紹介します。

	良かった	普通	あまり良くない	良くない
薬物乱用防止	45人	64人	8人	1人
姿勢教育	110人	3人	0人	0人

◆参加者の感想

- ・実践的な内容で参考になった。参加して良かった。
- ・明るい講師の先生でのお話で楽しく受講することができた。



全国養護教諭研究大会に参加して

芳賀町立芳賀南小学校 久保田 みどり

8月4・5日に滋賀県大津市で開催されました全国養護教諭研究大会に参加させていただきました。記念講演では「今、豊かに生きぬく力を育むために」と題し、鳴門教育大学特任教授 森田洋司氏より、「生きぬく力は、様々な学びを使いこなす能力である」と学びました。日頃、保健学習や保健指導で学んだ知識や技術を活用し、その価値を実感させる場の設定が重要だと感じました。基調講演では文部科学省初等中等教育局 健康教育調査官 岩崎信子氏より、「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」と題し、児童生徒の健康課題の推移とともに変化してきた養護教諭の役割と歴史を振り返りました。シンポジウムでは、跡見学園女子大学教授 松崎くみ子氏をコーディネーターとし、子どもたちの成長に携わる方々（学校医・学校長・教育委員会・養護教諭）の実践発表がありました。4人の発表者に共通するキーワードが「連携」でした。現状を読み取り、どのように変わって欲しいか、導きたいのか、明確なビジョンをもって連携を図ることの重要性を再確認しました。

翌日の課題別研修では第4課題・保健教育に参加しました。実践発表から、健康課題解決のための様々な工夫を学びました。特に、歯ブラシを小刻みに動かすための意識付けとして柄に鈴をつける取組、話し合い活動の準備段階としてブレインストーミングを取り入れ、意見や考えが重なり合うことの楽しさや概念が広がる楽しさを体感させる取組に大変感動しました。私自身も、健康課題の発見や解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブラーニング）をサポートできるよう、積極的に研修会に参加し、学ばなければならないと痛感しました。

最後になりますが、このような素晴らしい研修の機会を与えていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。



地区だより

佐野市立吉水小学校 田中 美代子

佐野地区は、小学校28名、中学校11名、高校6名の45名の会員で構成され、年4回の研修会を開催しています。講話等を含めた全体研修とテーマを決めての班別研修を通して、資質の向上に努め、有意義な研修を行っています。全体研修では、魔法の質問認定講師 柏木聖子先生から「あなたを輝かせる魔法の質問～人生の主人公は誰ですか？～」や佐野市教育委員会 仲井順指導主事から「学校保健安全法施行規則一部改正に伴う健康診断内容の変更について」の講話をいただきました。今後は、歯科医による歯科に関する講話を予定しております。また、班別研修では各ブロックに分かれて2年間の研究を進めており、平成27・28年度はそれぞれ下記のテーマで取り組んでいます。

- 小学校A班 「性に関する指導の資料作り」
- 小学校B班 「健康診断事前指導の資料作り」
- 小学校C班 「保健指導資料の作成」
- 中学校班 「保健室経営計画の項目と評価の仕方について」
- 高校班 「運動器検診の結果と見直しについて」



6月の春季研修会において、小学校A班が佐野地区代表として研究発表を行いました。

これからも小・中・高の連携を大切にし、養護教諭としての役割を果たしていきたいと思っております。